

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	0390100246		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームあやめ(1階)		
所在地	盛岡市神子田町8-27		
自己評価作成日	平成28年10月2日	評価結果市町村受理日	平成29年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoQd=0390100246-00&PrefQd=03&VersionQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居室内から見える場所でプランターを用いて野菜作りをしている。水遣りや収穫を入居者と一緒に行っている。食事前の音楽体操・嚥下体操、おやつ前のテレビ体操等を行い、体を動かす動かしやすさで筋力低下を防止する努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物内部は、白を基調とした壁面で明るく全体的に清潔である。新しい建築であるとともに、職員と利用者が共に、毎日、清掃し、清潔の維持にあたっていることにある。町内会には、会員として加入し、地域住民と同様に活動する方向にあり、運営推進会議の委員として、町内会長をはじめ、地域からの参加が多く、ホームの行事にも率先して参加していただいている。また、食事を楽しむことに留意取り組んでおり、準備や片づけ、食事は利用者と職員が一緒に行い、夏場はプランターで育てた食材を用いたり、季節のおやつ作りを利用者と職員が共に行い、楽しんでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはいつもあなたのそばにいて心の声を聞いています」を理念とし寄り添いながら言葉には出さない思いまで汲み取れるよう表情や仕草にも目を向けるようにしている。	協栄テックス(法人)の関連するグループホームに共通する理念である。理念を共有するために、あやめの活動マニュアルに記載するとともに、廊下に掲示、ユニット会議での話し合い等を行い、実践にあたっており、職員間において共有していることが垣間みられた。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加し万燈祭りや夏祭り、秋祭り等ホームの前まで来て下さり踊りや歌を披露して下さっている。また、運営推進協議会の委員や近隣住民の方をあやめの行事に招待し交流を図っている。天気の良い日はお散歩し地域の方々とあいさつを交わし合っている。	神子田町内会の一員として、地域の諸行事等やあやめの行事等を通し、双方向からの付き合いがなされており、地域に密着した取り組みが実践されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会において情報提供をしたり支援方法を知って頂けるよう努めている。行事に招待し普段の様子や介護方法を見ていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開き状況報告や今後の取り組みへのアドバイスを頂いている。	運営推進会議の委員構成は、町内会長をはじめ、地域住民を代表する立場の方が多い。年6回、奇数月に会を設定し、その日にホームの行事も企画し、それにも参加いただいている。会議では、委員から提言もいただき、それを参考に具現化していることもある。例えば、避難訓練のあり方などである。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定や生活保護受給者の受け入れ等担当者と連絡を取りながら支援している。また、運営上の疑問点等は訪問や電話等で確認をしている。	開設時から様々な情報提供や指導を受けているが、現在も諸報告の持参や、利用者の諸事務代行等、常に連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修を通して理解を深めている。また、センサーを取り入れる等して玄関施錠をしない時間を少しずつではあるが検討していた。鍵かけモデル地区であることや障害者施設の事件等もあったことから現在外戸は施錠行っているが内戸の鍵は日中は開錠し希望時は職員が付き添って外へ出れるようにしている。	身体拘束をしないケアについては、年1回の内部研修をマニュアルを使用して実施し、職員の意識共有に努めている。ただ、神子田地区は、警察との連携で鍵かけモデル地区であり、昼・夜とも鍵をかける実践をしており、外鍵はかけている。また、安全確保のため離床センサーを用いている利用者が1階2名、2階3名いる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて理解を深め、職員同士で声を掛けあえる環境を作り虐待に至る前に防止できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者が対応している。成年後見制度を利用している入居者が数名おり、連絡を取り合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族の心配事を尋ね、納得したうえで契約して頂けるようにしている。出来る限り本人にも見学して頂き雰囲気を感じていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の際に普段の様子を伝えたり記録を見て頂き要望や意見を聞きだすようにしている。	家族からの要望として出たものは、「散歩や外気にふれる機会を多くしてほしい。」また、「受診支援を願いたい。」などが最近出ているので、可能な限り実現する努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議・毎日の申し送りのみにとどまらず普段から意見や考えを聞き取るようにしている。行事や各係の活動については職員間で係を決め話し合いで進めるようにしている。	職員から出た意見・要望の中で実現できるものは、行事・防災・環境・リスクマネジメントの係で検討し、具現化を図っている。最近の具体例では、業務の時間帯の変更を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会に職員が所属するとともに、担当を持つことにより役割や責任を持って働けるようにしている。また、資格取得についても積極的にバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニット会議の際に勉強会を取り入れたり、経験や技術に合った研修に参加出来る様配慮し、職員の技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に参加したり同系列のグループホームに意見を聞く等し、自分たちの介護に活かせるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り見学に来ていただき、今何を困っているか、何を不安に思っているかを話をする中で伺ったりしている。本人が安心して生活するには何が必要かを確認しながらサービスにつなげるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点から話をよく伺うようにしている。また、入居後も連絡を取り合いながら心配事や要望を把握できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺った上で、今何が必要かを見極め、場合によっては様々な情報提供をしながら本人にとって必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来ることを活かし(掃除・洗濯・食事づくり・後片付け・文字書き等々)生活して頂いている。また、山菜の下処理や調理方法・団子づくり等は得意な方々に伺う等している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援の他、行事に参加して頂き一緒に楽しんでいただく等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会、子供時代の町を散策する等支援している。	一階と二階の利用者が学校時代の同級生だったという事で行事で会った際など交流している。また出身が鉾屋町の方々が鉾屋町のひな祭りなど行事を楽しんでいる。お手紙や年賀状で関係継続をしている方もいる。家族は多い方で一週間に1回、平均では、1ヶ月に2回位の面会がある。馴染みのお花見や紅葉の場所にドライブすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が互いに助け合えるよう会話の橋渡しや場面作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会に行く等している。また、家族に様子を伺う等しながら関係を継続できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしたいか伺ったり本人の好むものを提供したりしている。思いを言葉にできない方は利用者の立場に立って考えるようにしている。	理念の「そばに居て心の声を聞いて居ます」を体现し、日常のケアの中で、利用者の発する言葉や行動に注意を払い、利用者の思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時の聞き取りの他、普段話題にしたり家族に話を伺う等して把握に努めている。家族からの情報も活かし、入居者が過ごしやすい環境で生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での変化を見逃さず、表情や言動や行動からも感じ取れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回ユニット会議を行い職員同士活発に意見やアイデアを出し合い話し合っている。	計画の作成過程は、担当職員が情報提供し、それを全職員で検討したものにより、計画作成担当者が素案をまとめ家族に提示、その意見を入れて成案となり、実践となる。実践の結果の見直しは、原則3ヶ月に1回である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し共有している。また、日々の業務内でも気づいたことや工夫は職員間で話し合い、実践につなげている。月に一度の会議で見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々職員間で意見交換をしながら必要な支援は何かを考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人で外へ出て行かれる方に関しては家族の了解の下事前に警察へ情報提供をしたり、運営推進協議会の方々に利用者と触れ合ってもらって顔を覚えていただくことで地域の中で安心して生活できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、家族と協力しながら受診対応している。日々の生活状況を伝え必要な医療が受けられるよう配慮している。	協力医をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療を受ける利用者が多く、その他、診療科目によって、外のかかりつけ医を受診する利用者も5名程いる。受診支援は、家族を基本とするが家族の都合等により、職員が支援にあたっており、情報は文書、電話などで提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	電話や通院にて主治医・協力医・看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や退院時の連携のみではなく、お見舞いに行ったり家族と情報共有する等して現状の把握に努めている。病院の相談員と相談しながら早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の意向確認の他、状態の変化があるごとに家族・主治医と相談している。	看取りの指針があり、入居時に、本人・家族に説明をし、また重篤になった際など状態の変化に伴い、家族等の意思確認を行っている。それを前提に、その時の職員体制と利用者の状況の変化に対応しつつ、家族と相談、医療機関と連携しながら、支援にあたることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて対応方法を学んでいる。今年度から来年度は消防の協力を得てAEDの使用法や胸骨圧迫のやり方を身につける予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には地域の方々にも参加して頂いている。水害についてはマニュアルを再度見直し避難準備指示の段階から避難出来る様体制を立て直している。	防火管理者がおり、防災マニュアルも作成している。5/17、11/15のいずれも運営推進会議の日に、避難訓練を実施している。夜間想定し、非常口への誘導等、参加した運営推進委員からは、「出口が事前に分かれば良かった」や、「避難集合場所が不明」などの指摘が出ていた。	防災関係には、深く留意し取り組んでいることを前提にしつつも、人命にかかわることであり、一層努力することを望みたい。前回の外部評価の「期待したい内容」の深化と、近隣住民の協力体制の確立を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した声掛けを心掛けているが、配慮が足りなかったと反省することもある。本人が分かる言葉で声掛けをしている。	利用者一人ひとりを尊重する上で、職員が日常気を付けているのは、特に言葉遣いであるが、ぞんざいになる部分があった。そのことは、親しみや馴れから来ている面もあるが、慎まねばならないと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何をしたいか聞いたり考えたりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで過ごして頂けるよう声掛けし対応しているが職員の都合に合わせていただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたものを着用していないか、季節に合ったものを着用できているか等気を付けてみるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や片付け等は職員と一緒に行って頂いている。旬の物やメニューの話をして食事が楽しいものとなるようにしている。	食前体操を行い、みんなで一緒に食事に向き合っている。利用者に好みを聞き、献立てを作り、夏場には、みんなで水やりをしながら、プランターで育てた野菜を食材としたり、季節によって花まんじゅうなどをみんなで作り、おやつにするなど食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が減っているときは補助食品を使う等して必要なカロリーが確保できるように心掛けている。食事の趣向も把握し代替品を用意したりしている。1食ではなく、一日を通して必要量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った方法で口腔ケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンや尿量等を把握しその人に合った物を使用するようにしている。なるべくトイレで排泄出来る様声掛けをしたり、動作から汲み取りトイレ誘導するようにしている。	各利用者の排泄パターンを把握し、できるだけトイレを使用するように支援している。時間を見て声掛けをすることで、おむつの使用も若干ではあるが、減ってきているし、根気良く支援する努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに繊維質の物を取り入れたり、牛乳やヨーグルトを飲んでいただく等している。また、体を動かすことで気持ち良く排便できるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活の流れでタイミングを見ながら入浴できるよう声掛けをしている。入浴拒否のある方は足浴から始め気持ちよく入浴できるように進めている。	利用者1人につき、3日に1回は入浴している。入浴準備は、毎日午後にはできるようにしているが、利用者の希望があれば、それに対応することになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で自由に休めるよう声掛けしている。また、一人一人の睡眠パターンを把握できつつあり、それに合わせた介助を行っている。夕方からは職員の声のトーンを低くしゆっくりと動くように心がけ静かな気持ちで夜を迎えられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬確認表でチェックしている。服薬の変更があるごとに職員間に回覧し副作用や症状の変化をいつも以上に観察するよう申し送っている。一人一人に合わせた介助方法で服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の興味を見つけ出すよう努めている。出来ることで役割を持ていただき生活の主体になって頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日とは行かないが天気の良い日には戸外へ出るようにしている。一緒に掃除をする等外気浴をする機会を日々の中で取り入れている。また、家族との外出や外泊を支援している。	できるだけ戸外に出ることに支援に努めている。夏場は、プランターへの水やりや、外掃除をしてくれたり、ホーム周辺の散策、少し遠くなると鉈屋町の町屋館まで行ったりする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭管理をしているということはない。必要なものが生じたときは家族に確認を取ってからホームの一時建て替えて購入している。行事等で買い物をするときは支払いを本人が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話を利用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では入居者の体調や希望に配慮し空調・音・光の調節を行っている。また、職員の声の大きさや動きにも配慮し入居者が快適に過ごせるようにしている。	空調、音響、採光などに注意し、管内の清掃は、職員と利用者が一緒に行っている。廊下等の掲示には、行事の写真等バランス良くされている。小さな畳スペースで利用者が助け合いながらゴミすりをする等の日常の何気無い作業が出来るように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話をするきっかけづくりをしたり作業を通じて交流を図ったり役割を持って生活できるよう支援している。また、居室で思い思いの時間を過ごしたり玄関ソファにてのんびりしたりと皆さんと一緒に過ごせる空間・一人で過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持ち込みを歓迎しており、慣れ親しんだものに囲まれて安心して過ごせるよう工夫している。	利用者の使い慣れた物を思い思いに持ち込んで、それぞれの居室づくりをしており、その個性が出ている。各居室がよく清掃され、慣れ親しんだ寝具、椅子、小さめのサイドテーブルがベッド柵に取り付けられスッキリとしたその人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには転倒を防ぐため障害物は置かないようにしている。トイレの表示や居室に名前表示や写真等一人一人の能力に合わせていきたい場所へ行けるよう支援している。		